



新年のごあいさつ

群馬県教育委員会

教育長 吉野 勉

明けましておめでとうございます。

群馬県ユネスコ連絡協議会の皆様には、希望に満ちた晴れやかな新年をお迎えることと、心からお喜び申し上げます。

さて、二〇一四年を振り返ってみますと、群馬県のユネスコ関係者の皆様にとつて、真つ先に思い出されるのが、六月に「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界文化遺産に登録されたことではないでしょうか。

日本初の官営製糸工場としてフランスの協力のもと一八七二年(明治五年)に完成し、全国の器械製糸工場の模範として我が国の製糸業の発展に大きな影響を与えた「富岡製糸場」。換気を重視した清涼育と呼ばれる養蚕技術を確立し、日本の養蚕農家の原型ともなった「田島弥平旧宅」。蚕が病気になるににくい清温育と呼ばれる養蚕技術を確立し、その知識と技術の普及に大きな役割を果たした学校の姿を伝える「高山社跡」。岩の間から吹き出す冷風を利用した蚕種貯蔵によって、春だけでなく夏から秋にかけての養蚕を可能にし、ひいては生糸生産量の増大にも貢献した「荒船風穴」。これら四つの構成資産について、日本の近代化において中心的な役割を担っただけでなく、西洋の器械製糸技術と日本固有の

養蚕技術を融合させ、世界の絹文化の発展に大きく貢献したとして「顕著な普遍的価値」が認められたのです。

世界遺産登録の興奮も冷めやらぬ十月には、群馬県ユネスコ連絡協議会主催の「関東ブロック・ユネスコ活動研究会」が高崎で開催され、本県、および、関東各都県からおよそ三百人の参加者を集めました。

高崎シテイーギヤラリーでは、ユネスコ国内委員会と日本ユネスコ協会連盟の報告が行われ、基調講演を前ユネスコ事務局長の松浦晃一郎先生よりいただきました。その後、会場を高崎ビューホテルに移して、第一分科会「世界遺産・地域遺産」では、富岡ユネスコ協会による現地富岡の世界遺産活動などの発表。第二分科会「ESD・ユネスコスクール」では、前橋六中・新島学園高校の生徒会による若々しい発表。第三分科会「異文化理解・国際交流」では渋谷・大泉ユネスコ協会の活動報告。第四分科会「ユネスコ活動運営・活性化」では草加・太田ユネスコ協会の活動報告。各分科会では、これらの発表を元に参加者の活発な議論が交わされ、従来二日間で行っていたものを一日にまとめた密度の高い関東ブロックであったと伺っております。

また、年の暮れも迫る十二月には、「明るくエネルギー消費の少ない白色光源を実現した高効率青色発光ダイオード(LED)の発明」に対し、赤崎勇、天野浩、中村修二の三氏に、二〇一四年のノーベル物理学賞が贈呈されました。

スウェーデン王立科学アカデミーから発表されたプレスリリースでは、この発明を「世界を照らす新たな光」と述べ、世界の電力の四分の一を消費している照明用電力を大幅に減らすことができ、送電網から電力の供給を受けられない十五億人の人に明かりを届けることが可能になったと賛辞を送っています。

ところで、今年・二〇一五年はどんな年になるのでしょうか。ユネスコと深く関わる場所では、国連が二〇一五年を「国際光(ひかり)年」と定めています。

前述の青色LEDの例でも明らかのように、光技術は、地球社会の将来にわたる「持続可能な発展」にとつて重要な役割を担っております。そこで、光に関する新しい知識と光関連の活動を促進することの重要性を一般社会に浸透させていくため、ユネスコを中心に国際光年を推進していくことになりました。

二〇一五年が国際光年に選ばれたのは、光科学の歴史を飾るいくつかの画期的な発明や発見などの成果が、ちょうど節目の年に当たったためです。

その最初の成果が、日本ではなじみが薄いかも知れませんが、イスラム圏の科学者イブン・アル・ハイサム(欧米ではアルハゼンとも呼ばれます)による光

の研究です。ハイサムは、今からちょうど千年前、日本ではまだ平安時代の一〇一五年ごろに、アラビア語で「光学の書」をまとめました。

当時、物が見えるのは、目から光線が出るためだと考えられていましたが、ハイサムは数々の実験から推論して事実を見つけないという手法を通じ、物に反射した光が目に入って像が結ばれるという仕組みを考えました。

ハイサムの死後、光学の書はラテン語に翻訳され、「光学宝典」と改題されてヨーロッパで出版されました。光学宝典は、解説書として十七世紀まで使われ、ヨーロッパの科学者に大きな影響を与えたといわれています。

国際光年は一月十九・二十日にパリのユネスコ本部で開催されるオープニング・セレモニーで本格的にスタートし、世界中で様々な記念イベントが展開される予定です。国内でも国際光年記念イベントが開催されますので、どうかユネスコ関係者の皆様も、今年は光と光技術に親しんでいただければと思います。

末筆になりましたが、群馬県ユネスコ連絡協議会の皆様にとつて、新しい年が国際光年にふさわしい光り輝く一年になりますよう祈念いたしまして、新年のあいさつとさせていただきます。

